6/10 赤旗

マイナ保険証

3929機関トラブル発生

保団連「直ちに運用停止を」

全国保険医団体連合会（保団連、住江憲勇会長）は9日、マイナンバーカード保険証（マイナ保険証）による医療現場のトラブルのトラブルが、回答した医療機関（システム運用中）の約65％に当たる3929機関で発生していることがわかりました。保団連は、医療現場と患者の無用なトラブルを招く現行の健康保険証廃止の撤回を求めました。

マイナ保険証のトラブル調査結果を発表し、健康保険証廃止の撤回を訴えた記者会見＝9日、東京都渋谷区

調査は35都道府県の保険医協会・保険医会の会員医療機関を対象に実施。全体回答数は7208件。システムを運用しているのは6062件で、うちトラブルありが3929件（64・8％）。トラブルの種類は「無効・該当資格なしと表示され、被保険者の資格情報が正しく反映されない」が2546件で最多（64・8％）でした。

記者会見した竹田智雄副会長は「マイナンバーカードのみで確認できた例がない。患者に保険証の提示も求めざるを得なかった」「氏名の漢字やフリガナが違う。住所移転も反映していない」など医療現場の声を紹介。「厚生労働省にオンライン資格確認義務化延期とシステム改善を求めてきたが、一向に改善せず見切り発車された。健康保険証廃止と医療現場の訴えを無視し、実際にトラブルを招いた政府与党の責任は重大だ」と語りました。

住江会長は、申請の漏れや遅れで無保険者をつくりだしてしまう問題があり、皆保険制度の根幹を揺かすとして「直ちに運用停止、全容解明し、解決策と再発させない担保を国民に示すことが先決」と述べました。